

**注意点1**



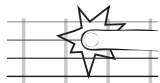
**右手**

**発音がハッキリする  
右手の軌道を覚えよう**

まずは、タッピングの基礎的な弾き方を解説しよう。ポイントは2つ。1つ目は、タッピングは弦の真上から叩くようにすること。斜めから叩くと、弦を持ち上げてピッチが上がってしまったり、弦がネックから外れてしまうことが起きるので注意しよう(図1-a)。2つ目は、プリング時は1弦側か6弦側に軽く引っ掛けるようにすること。強く引っ掛けてしまうと、同じく、弦を持ち上げてピッチが上がってしまったり、弦がネックから外れてしまう(図1-b)。また、プリングを弦の真上方向へ行なうと、音をしっかり出せないで、斜め方向に動かす【註】と良い。この2点を頭に叩き込んでから、右手で指板を叩くべし!

図1-a タッピング時の指の角度

○ 真上から叩くパターン



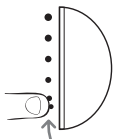
弦を持ち上げることはなく、ピッチも正確。

× 斜めから叩くパターン

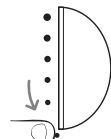


弦を持ち上げてチョーキングしてしまうので、ピッチがズレる。

図1-b タッピング時のダメなプリング例



弦を持ち上げて、音程を上げてしまう。ノイズも多いので厳禁だ。



弦がネックの下に外れてしまう。音にならないのでNG!

**注意点2**



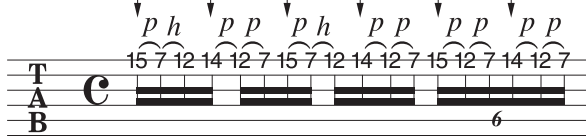
**理論**

**リズムを3音ずつで取って  
正確なタイミングで演奏せよ**

このメイン・フレーズは、各小節とも1~3拍目が16分音符の6音区切りフレーズで、4拍目が6連符になっている(図2)。基本的には3音ずつに区切ってリズムを取ると演奏しやすいだろう。1~3拍目では、その3音の先頭がすべてタッピングになるので、タッピングのタイミングが遅れないように気をつけること。続く3~4拍目では16分音符から6連符に符割りが変化するので、ここではスピードを上げるように意識して右手と左手を素早く動かそう。4拍目の6連符も3音ずつに区切って取るため、6連符=1拍の半分、つまり8分音符を感じられるとリズムにキッチリ乗れるはずだ。

図2 メイン・フレーズのリズムの取り方

・1小節目



R 人 小 R 小 人 R 人 小 R 小 人 R 小 人 R 小 人

6音

6音

半拍=8分音符のリズムを感じよう。

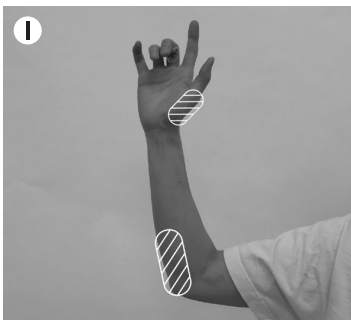
**注意点3**



**右手**

**親指の付け根&ヒジによる  
タッピングのミュート**

タッピングを綺麗に演奏するためには、余弦のミュートにも注意する必要がある。タッピング時のミュートは、右手の親指付け根付近とヒジを使って行なうと良い(写真①&②)。親指付け根でタッピングするフレット周辺をミュートして、ヒジで低音弦の振動を抑えよう。ギター・キッズの中には、親指の付け根だけでミュートを行なう人がいるが、低音弦のミュートが甘くなるので、必ずヒジも使うことが大切だ。ちなみに、タッピング時には右手の親指をネックの上部に置くとフォームが安定する。右手のフォームが不安定になると、発音だけではなく、ミュートもしづらくなるので注意しよう。



親指の付け根とヒジの両方を活用して、余弦のミュートを確実にこなそう!



実際の演奏時。右手の親指をネックの上に置くと、右手のフォームが安定する。

【斜め方向に動かす】タッピングは、一般的には人差し指を曲げて低音弦側に引っ掛けることが多い。しかし、ダウン・ピッキングの延長として、高音弦側に引っ掛ける方法もある。弾く弦によって切り替えるのもOKなので、研究してみよう。